

コロナ禍による人口動態への影響

◆コロナ禍による超過死亡で米英の平均寿命が短縮

2021年2月、米国疾病予防管理センター（CDC）は、20年上半期の人口動態から、米国民の平均寿命が約1年（男性1.2年、女性0.9年）短縮したとする推計を発表した。第二次世界大戦以来の大幅な落ち込みとなる。黒人が2.7年、ヒスパニックが1.9年、白人が0.8年と、短縮に人種間の格差が生じている。また、男女差も広がった。主たる原因は、COVID-19による超過死亡（上半期で約13万人）だが、パンデミックによる救急治療の遅延やオピオイド（医療用鎮痛麻薬）の過剰摂取死も関係したとしている。米国では、20年1年間で約35万人がCOVID-19により死亡していることから、平均寿命がさらに短縮した可能性もある。

英国でもオックスフォード大学が、21年1月、イングランドとウェールズ住民の平均寿命が19年に比べ約1年（男性1.2年、女性0.9年）短縮したとする推計を発表した。20年の世界のCOVID-19による死者数は約180万人に及ぶ。COVID-19が猛威を振るった他の欧米各国でも同様な傾向となった可能性が高い。

一方日本では、厚生労働省が、21年2月、20年の死者数が138万4,544人と前年に比べ減少したと発表した。COVID-19による死者数（約3,500人）を上回って、肺炎などの他の疾患による死者数が減ったためだ。マスク着用などの感染防止策により、インフルエンザ感染者数が前年同期比で99%以上減少した。

◆出生数にも影響、人口減少が加速する可能性

COVID-19は出生にも影響を与えている。米国のブルックリン研究所は、21年の米国の出生数が30万人減少すると予測している。イタリアでは、20年1～10月の婚姻数が前年同期比で半減し、12月の出生数が前年同月比で21.6%減少した。

日本でも、21年の出生数が大幅に低下する見込みだ。20年12月、厚生労働省は、20年1～10月累計の妊娠届件数が5.1%減少したと発表した。

平均寿命と出生数から推計する人口予測は、経済成長の長期予測や社会保障の制度設計において根幹をなす。コロナ禍による、世界の人口に対する影響が、いつまで続くか、回復するかに注視が必要だ。

【毛利光伸】